

案 件：第2回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	令和4年12月8日(木) 午前10時00分～午後11時30分
場 所	豊橋市役所 東館12階 東122会議室
参 加 者	委員 13名 アドバイザー 1名 事務局 長寿介護課

1 議事

(1) 「多世代交流検討会」開催結果報告

・事務局より説明

－ 意見 －

- ・委員： 当日の会は大変盛り上がっていたと思う。様々な意見が出てきていた。当日参加した方はどのように感じたか。
- ・委員： 私は社会教育を10年程行っているため、成人する人たちとずっと話をしてきた。若者に高齢者の問題に対して興味をもってもらいたいが、若い時から教育をやっていないと難しい。高齢者向けのスマホ教室を行うなど、若い人たちが得意なものを高齢者に教える環境をつくってあげた方が良いと思う。
- ・委員： 高齢者サロンの担い手がいないということが問題であり、若い人たちをどうやって巻き込むか、若い人たちがなにを考えているか知りたいため今回の会を企画してもらった。若い人たちが地域のことを真剣に考えていることが分かった。今回1回だけではなく、今後もなんらかの形で行うことが良いのではないか。そこから地域の若者にだんだん輪が広がっていき、地域の多世代交流が広がっていくのではないか。
- ・委員： 多世代交流検討会では班長をやらせていただいた。最近自身が運営に携わる認知症カフェにも学生がくるようになった。「認知症カフェとはどのようなものか」など、大学生から個別の連絡もくるようになった。学生は知りたいものは知りたいと思っており、知りたいものに対しては行動力があると感じている。今後もこのような会をやったほうが良いと思う。大きい単位ではなくても地域ごとなどの単位でも良いし、大学に自ら出向くことも良いのではないか。
- ・委員： 世代間ギャップについては、お互いを知ることが大切。つつじが丘小学校5年生は、高齢者の介護予防のために高齢者と交流をしたりしている。若者にとっては身近に高齢者がいないケースがあるため、多世代交流検討会のような会を何度か行って道筋をつくるべきではないか。
- ・委員： 大学生になると地域から離れていく人が多い。そして、地域についての情報にも疎遠になる。サロンに若者の力が欲しいという声があるが、若い子にもメリットがないと難しいのではないか。
- ・委員： 若い人が高齢者から話を聞きたいといった意見があった。地域の独自の伝統を掘り起こすときに説明できるのは高齢者しかいない。高齢者の話を地域の歴史としてしっかり聞くことが大切なのではないか。高齢者をリスペクトしていくべき。
- ・委員： 校区の自治会長と民生委員を兼ねていたことがある。中学校から自治会について話をしてほしいという要望があり、コロナウイルスのためオンラインで行った。教育の現場でこのような地域を知ってもらえる機会があれば良いなと思った。

最近は民生委員の欠員も多い。若い人でもやりたい人は多いと思うが、若い人にやってもらうのは難しい。

- アドバイザー：多世代交流検討会を実現できてよかった。せっかくできた縁なので大切にしてほしい。オンラインで気軽に縁をつなげていくことが大切。豊川市の「結ネット」は実験中だが、今後安否確認機能の実証実験を行う。高校生に祭りの時に来てもらい、高齢者に「結ネット」の使い方を教える。成功したら他の自治体も真似できるかもしれないのでまた報告する。お寺でマルシェをすると人がたくさん来て交流が生まれる。寺もひとつの財産なのではないか。
- 委員：豊橋市の寺でもイベントを行う予定がある。
- 委員：第1部の講師の方の話であったフードバンクは社会福祉協議会と行政、商工会議所で運営している。豊橋は組織的動員力が特徴的。市民活動というよりは商業関係。
愛知大学にもフードドライブ参加しませんかという問い合わせがくる。行政でも教育など他の機関とつながることが大切なのではないか。
- 委員：豊橋でも向山にある多世代交流の団体ではフードドライブや食品提供で配ったりするサロンもある。そういうところをまねして広がっていけば良いと思う。
- 委員：貧困の高齢者を支えるためにもフードバンクは必要だと思う。
- アドバイザー：商工会議所の会報誌に記事を書けることも会議所とのつながりになるのではないかと。行政としては広がりをもってほしい。
- 委員：生活支援コーディネーターでも商工会議所とつながって駅の広場でお店を出すなど繋がりをもっていきたい。青年会議所とも一緒になにかできればと思っている。

2 その他

- 令和4年度 第3回協議会の日程について
令和5年2月13日（月）10時00分～